

## 事例 18 伊勢神宮式年遷宮御用材の供給

(中部森林管理局 木曽森林管理署、東濃森林管理署)



- ・長野県木曽郡上松町 小川入国有林
  - ・御杣始祭
- (令和7(2025)年6月)



- ・岐阜県中津川市 加子母裏木曽国有林
  - ・裏木曽御用材伐採式
- (令和7(2025)年6月)

伊勢神宮では、20年に1度、社殿等而建て替え御神体を移す「式年遷宮」が約1300年にわたり行われており、木曽ヒノキをはじめとする多くの高品質な木材が必要です。こうした中で、伊勢神宮に隣接する「宮域林」では確保できない木材について、木曽森林管理署と東濃森林管理署が管理経営する国有林からも供給を行っています。両署の国有林の一部は、江戸時代から昭和初期まで「御杣山」や「神宮備林」として式年遷宮に木材を供給するよう管理されていた経緯があります。

令和7(2025)年6月には、第63回式年遷宮に用いる御用材の伐採に先立ち、伝統的な祭儀である御杣始祭及び裏木曽御用材伐採式が、木曽森林管理署及び東濃森林管理署管内の国有林で行われました。これらの祭儀では、伐採する木曽ヒノキ等を両署から供給し、三方向から斧を入れて伐採する「三ツ緒伐り(三ツ紐伐り)」と呼ばれる古式にのっとった伝統的な技法により、厳粛に儀式が行われました。

両署は、これまで引き継がれてきた森林資源を適切に管理しつつ、引き続き、我が国の伝統文化の継承に必要な木材を供給していくこととしています。